



RA協議会 トムソン・ロイター セッション
国際共同研究の支援を考える
～研究者のペルソナに合わせたアプローチ

トムソン・ロイター
リサーチ&コンサルティング・サービス
2016年9月1日

The intelligence, technology and human expertise
you need to find trusted answers.



the answer company™
THOMSON REUTERS®

本日のアジェンダ

- 国際共同研究の促進に向けたアンケート調査のご紹介
（順天堂大学様の事例） – トムソン・ロイター 30分
- 順天堂大学における国際連携促進の取組み
（調査後のフォローアップ） – 順天堂大学 15分
- パネルディスカッション 45分

背景

第3期中期計画において掲げる研究関連の目標

特定分野の重点的推進：83法人
学際的研究の推進：78法人

国際共同研究の推進：81法人

産学共同研究件数の向上：69法人
若手研究者育成に関する取組の充実：79法人
リサーチアドミニストレータ（URA）の活用：64法人



- 組織的な**国際連携研究**を推進する。
- アジアをはじめとした世界諸国において、高等教育の発展、研究レベルの向上、並びに人材育成に貢献するために、**国際共同研究や国際協力事業等**を展開する。
- 国際的な教育・研究ネットワークを充実させ、**国内外の大学・研究機関等との連携を強化**する。

「各国立大学の中期目標・中期計画」（平成26年3月）より抜粋

従来の支援

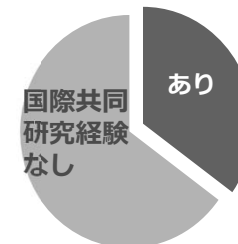
共同研究の初動や運用面、成果の高度化に関わる支援が中心

研究者の招へい、招へい研究者の旅費・謝金、教職員・学生の派遣旅費、研究員の雇用経費などの支援、国際研究広報体制の整備、国際シンポジウムの企画・運営 など

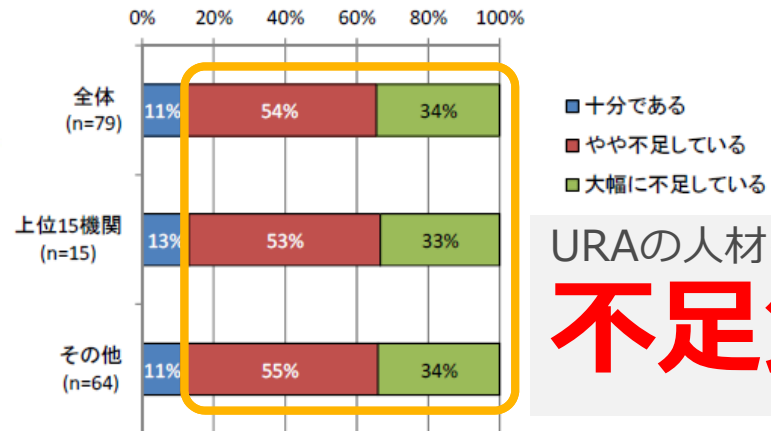
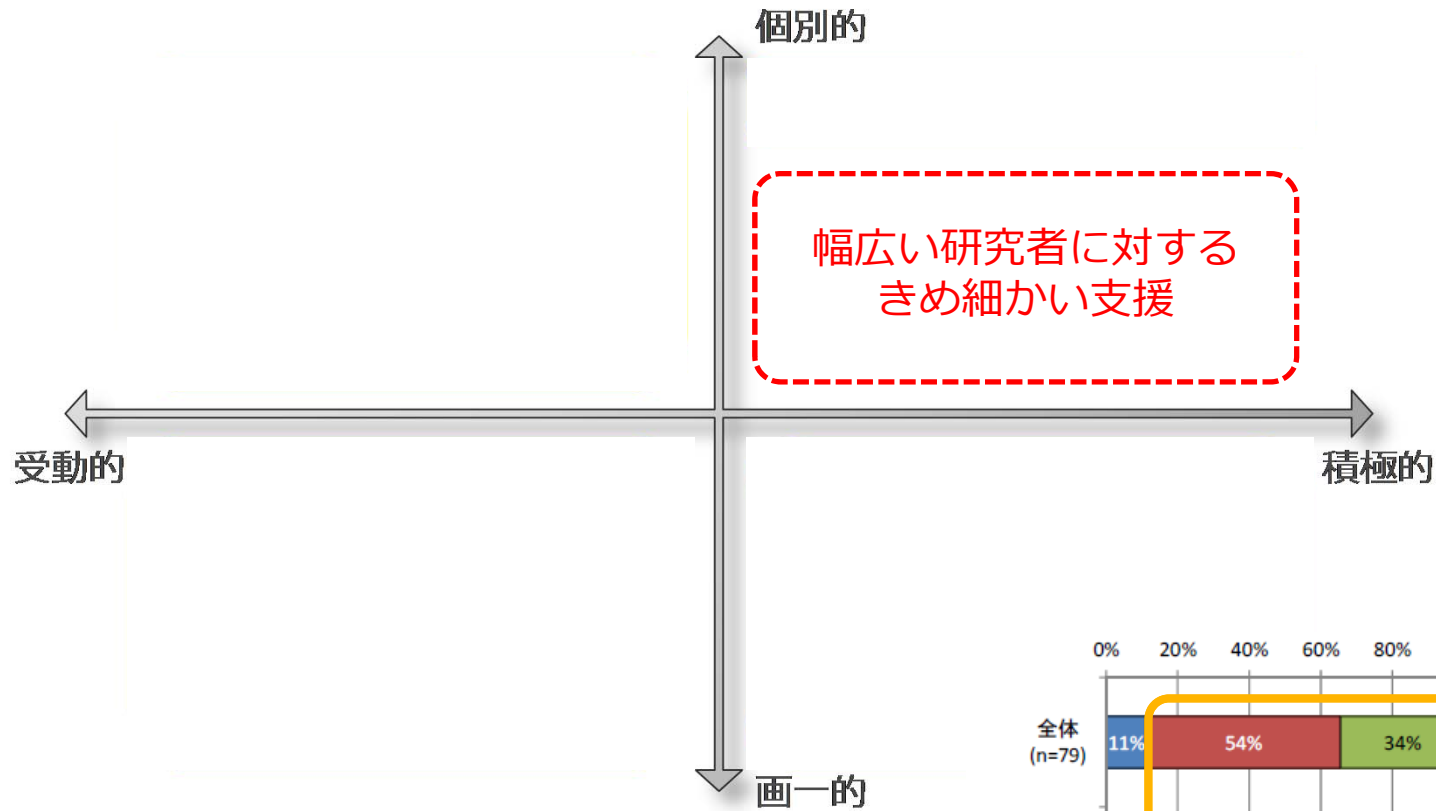
研究者の声

- 共同研究を相談する機会がない。
- 共同研究候補先を見つける段階で課題がある。
- グローバルな課題では一緒に検討することが不可欠である。
- 共同研究をすることにより、さらなるネットワークの拡がりを期待。
- 共同研究計画をすることにより、他の分野に自分の研究分野への興味を広める足掛かりになる。
- どのように学内の手続きをとるべきかわからない。
- 研究の課題を見つけることが一番の「課題」になっている。
- 共同研究に関して、大学内、国内および海外研究者の候補者の情報と連絡の取り方、また実際に連絡した後の事務手続きの支援があればありがたい。

研究者ニーズに合わせたより効果的な支援が考えられるのでは？



研究支援の形態

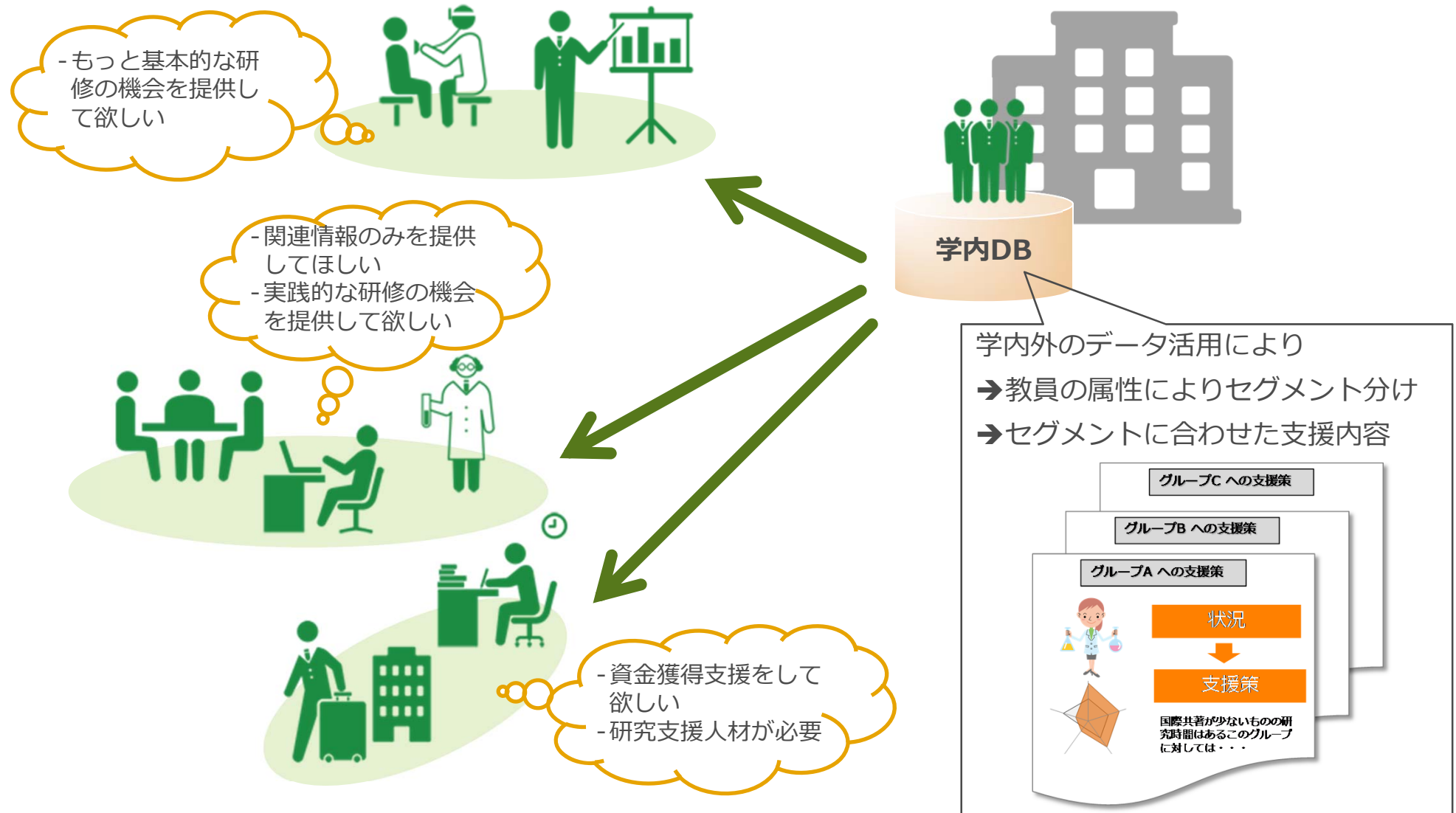


URAの人材は
不足気味

URA人材に関する量的な充足状況

「リサーチ・アドミニストレーター業務の自立的運営に向けた調査・分析」三菱総合研究所

セグメント化されたグループへの積極的な支援



パネルディスカッション（45分）について

■テーマ

『大学本部（URA・研究推進部）による
研究者の効果的・効率的な支援のあり方について』

■パネリスト

- 順天堂大学 高野様
- 新潟大学 平井様
- 東京農工大学 斉藤様
- 横浜国立大学 矢吹様

■パネルディスカッションのトピック（会場からもご参加ください！）

- URAが抱える研究者支援の課題（量的な充足度、ニーズの抽出、ニーズへの個別対応 など）
- 理想とする支援のあり方
- 先進的な取組み（効果があった取組み、試行的な取組み など）



THOMSON REUTERS

国際共同研究の促進に向けた アンケート調査のご紹介

どうしたら国際共同研究が
活発になるのだろうか？

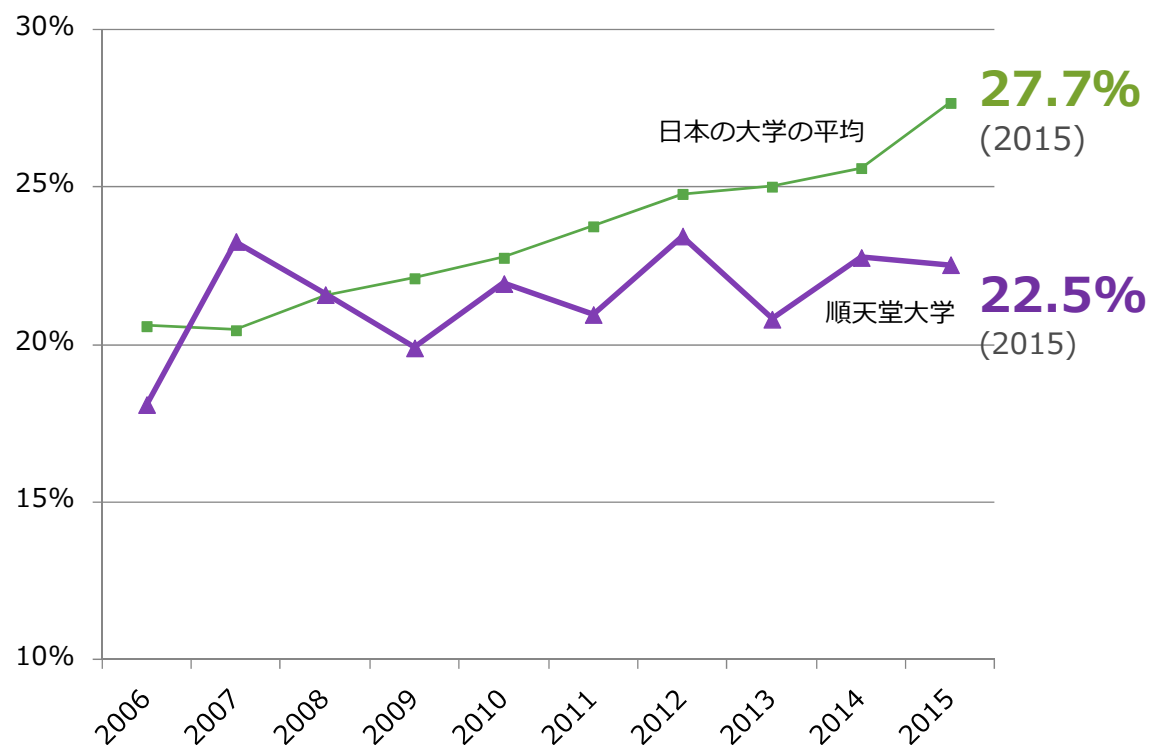


the answer company™

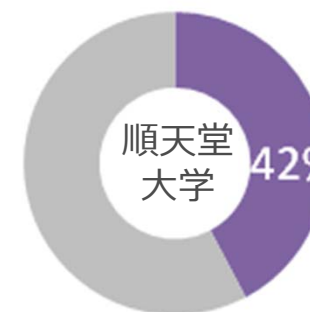
THOMSON REUTERS®

国際共同研究の現状

国際共著論文の割合



国際共著論文がある研究者の割合



2011年以降の論文数3報以上の著者のうち国際共著が1報以上ある著者の割合。

調査項目の設計・分析の観点

- 対象者を分類しそれぞれのグループでどのような支援が求められているのかを可視化する。

対象者の分類

属性

1. 研究室
2. 役職

どんな人が意向を持っているのか？



共同研究の経験

1. 経験の有無

共同研究の必要性

1. 研究分野として
2. 個人として

共同研究の意向

1. 意向の有無

共同研究への期待

1. 資金・リソース
2. 既存の専門性
3. 未知の専門性
4. 既知の相手
5. 未知の相手

意向のある人はどんな期待を持っているのか？

支援内容の分類

共同研究のフェーズ

1. パートナーの認知
2. コンタクト
3. 資金獲得
4. 実施
5. 成果発表



支援形態

1. 資金
2. 情報
3. マンパワー
4. システム
5. インフラ

どんな期待を感じている人がどんな支援を求めているか？

研究者は支援を求めているのだろうか？



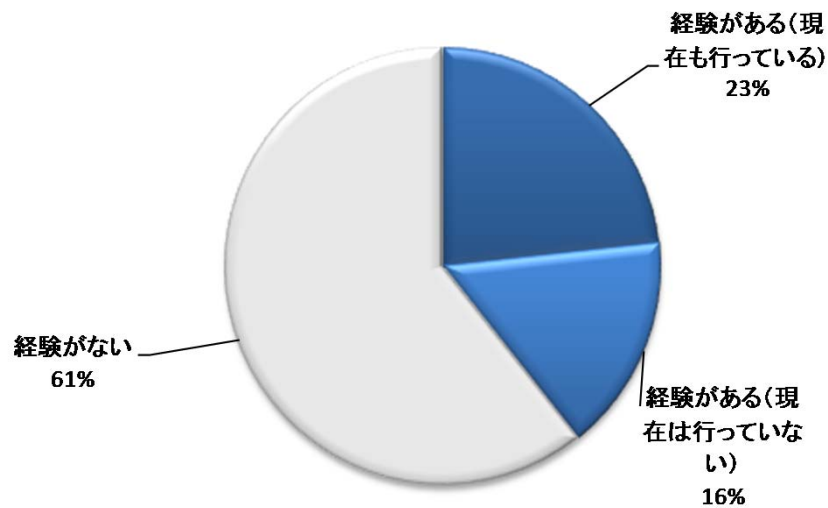
the answer company™

THOMSON REUTERS®

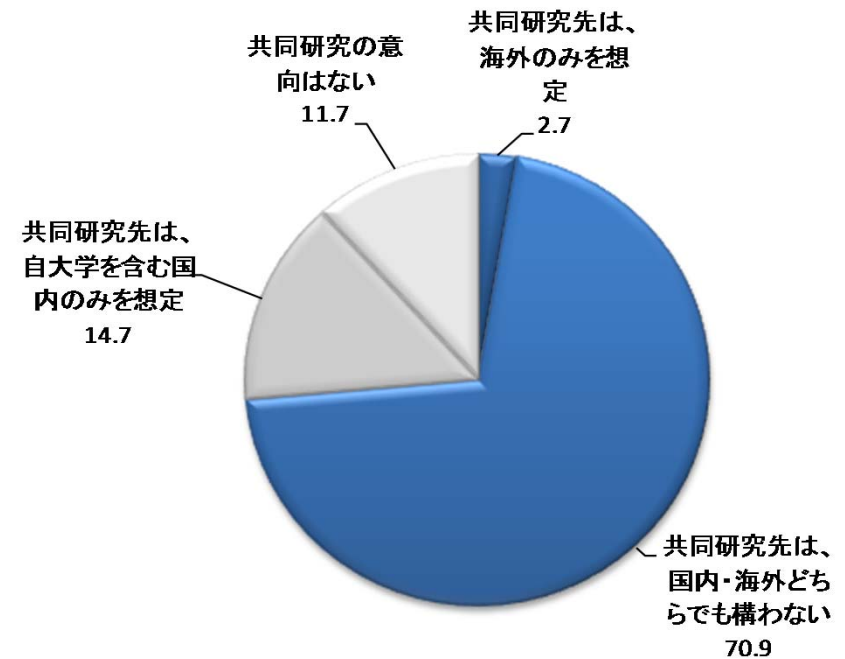
国際共同研究の経験、意向

- 国際共同研究を過去に行っているのは4割程度。
- 国際共同研究の意向を持っているのは、7割強。

国際共同研究の経験



国際共同研究の意向

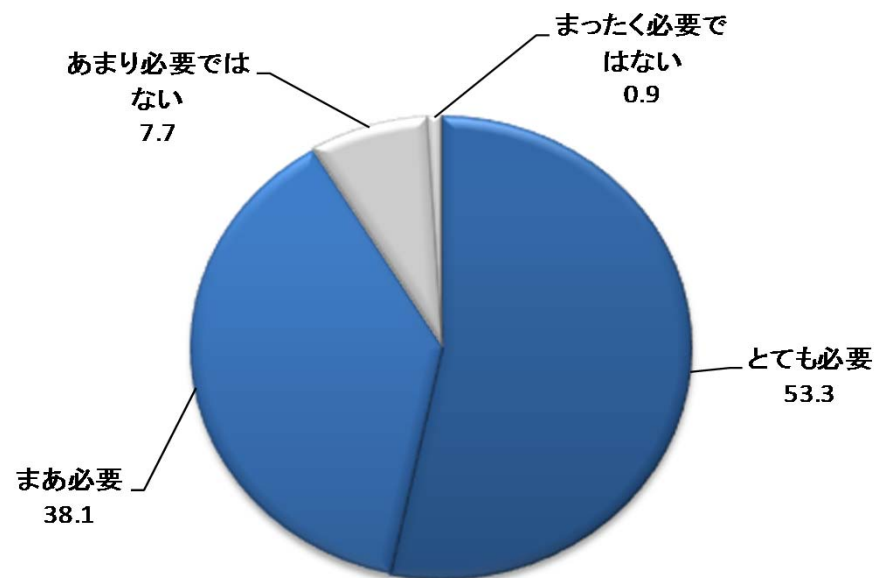


N = 443
医学部 6割
助教35%、准教授・講師35%

国際共同研究への支援の必要性

- 国際共同研究に対する大学への支援は、9割以上が必要と答えており、大学からの支援は研究者も期待していると考えられる。

国際共同研究に大学からの支援は必要か？



どんな支援が求められるのだろうか？



the answer company™

THOMSON REUTERS®

共同研究を行う際の課題・支援ニーズ

- 共同研究を開始する前の段階での課題を多くの研究者が課題に感じている。
- 支援ニーズでの高い資金面や事務関連についても共同研究を始める前の段階という視点からも考えることが重要と考えられる。



支援の効果・効率をあげるには？



the answer company™

THOMSON REUTERS®

研究者のグループ分け

共同研究を行う上での課題やニーズは現在の研究の実施状況によって異なるのでは？

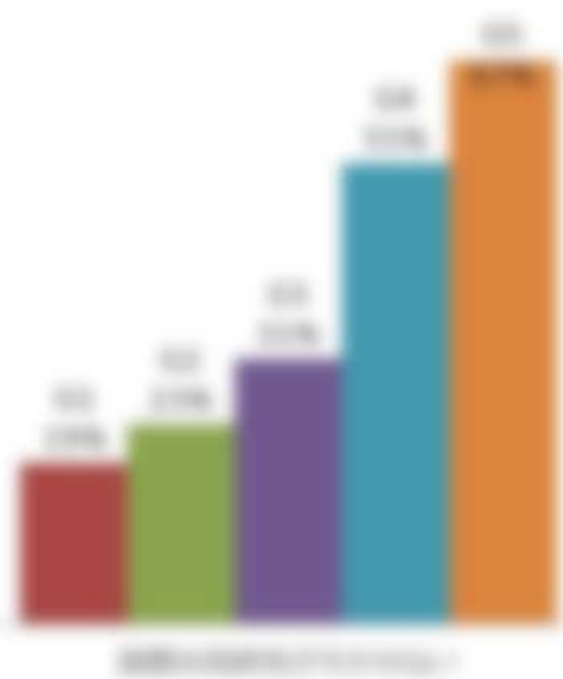
- よりニーズにあった支援策を検討するため、研究者をグループに分けて、国際共同研究の課題や求めている支援内容の特徴を整理する。
- グループは直近5年間の国際共著論文数と論文数全体をもとに設定した。
- 国際共同研究の意向有の割合は国際共同研究が多いグループほど高くなっている。

非公開

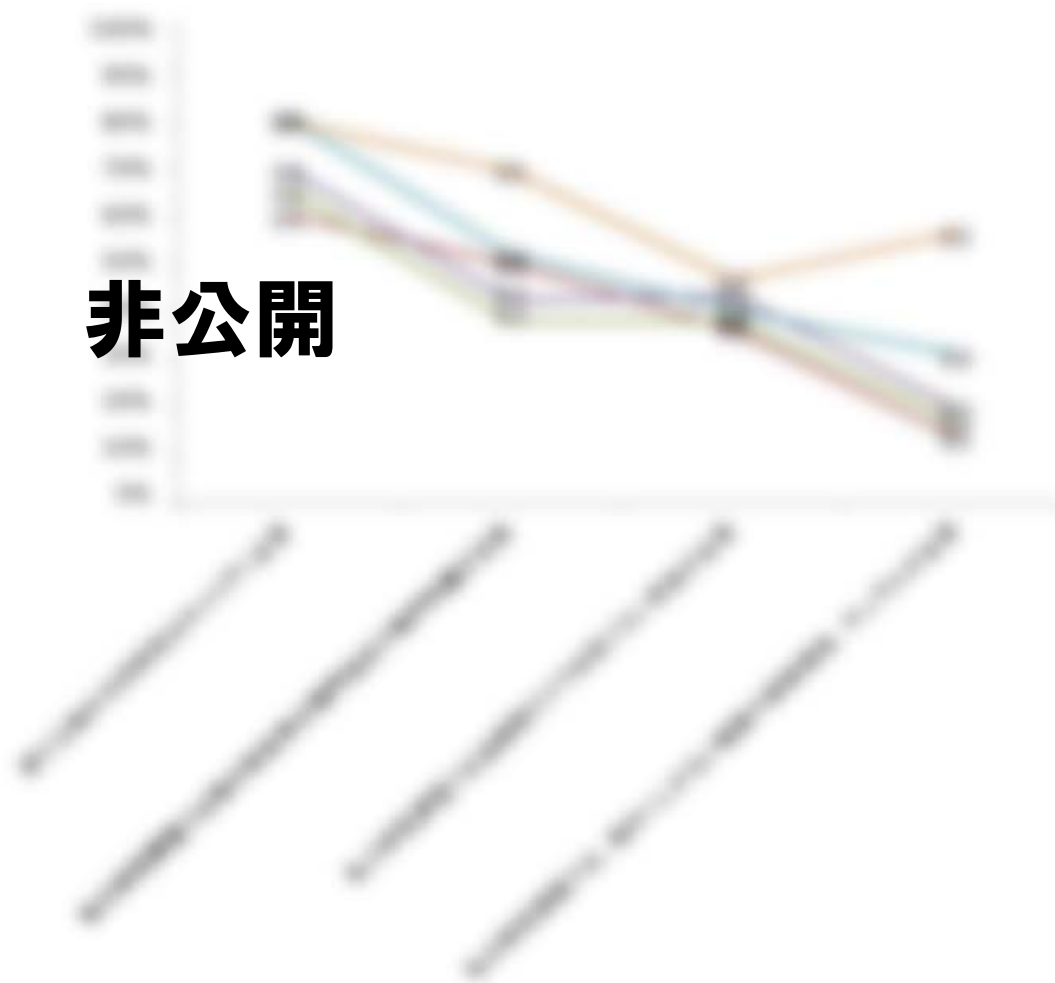
※各グループのうち国際共同研究の意向有の人の回答結果。

グループ間差：現在の研究課題の特性

- 国際共同研究を現在行っているグループ（G4, G5）では、国際共同研究の必要性をより強く感じている。G5では、専門技能やサンプルといった具体的な項目でも必要性の認識が強い。
- 反対に、現在国際共同研究を実施していないG1～G3では、G4やG5に比べ具体的な項目での必要性の認識は低い。



非公開



グループ間差：相手先の決定度・実施の際の課題

- G1~G3のグループでは候補を見つける段階に半数以上が課題。G1やG2では、候補に連絡を取る段階にもほかのグループより多く課題を感じている。
- 一方、現在も実施しているG4やG5では候補を見つける段階の課題は相対的に小さく、候補と交渉・合意する段階に課題を感じていることがわかる。また、G5については発表・実用化段階でも相対的に多く課題を感じている。



非公開

グループ間差：支援ニーズ

- 支援ニーズの各項目を国際共著の有無と海外での研究経験の有無別の要望の強さでマッピングする

非公開



直接のヒアリングから



- 直接のヒアリングの経験が豊富な弁護士
 - 直接のヒアリングを依頼する上での最適な方法で研究費や報酬方法を決定
 - 報酬できる範囲の決定が早い
 - 貴社への研究費へのアクセス方法が明確
 - フォロアップで懸念事項が解消
 - 直接のヒアリングの経験豊富な弁護士
 - アクセスが容易なフォーミュラの提供
 - 報酬受け入れの提供
- 直接のヒアリングの経験豊富な弁護士
 - 直接のヒアリングで研究費の手配が早い
 - 直接のヒアリング
 - 報酬を受け取れる研究費の手配が早い
 - フォロアップアクセス
 - 直接のヒアリングの経験豊富な弁護士

非公開

支援の効果・効率をあげるには？



- 支援の効果を高めるには？
 - 支援の効果を高めるには、支援の開始から終了までの期間を短くすることが重要である。支援の開始から終了までの期間を短くすることで、支援の効果を高めることができる。
 - 支援の効果を高めるには、支援の開始から終了までの期間を短くすることが重要である。支援の開始から終了までの期間を短くすることで、支援の効果を高めることができる。
 - 支援の効果を高めるには、支援の開始から終了までの期間を短くすることが重要である。支援の開始から終了までの期間を短くすることで、支援の効果を高めることができる。
- 支援の効果を高めるには、支援の開始から終了までの期間を短くすることが重要である。支援の開始から終了までの期間を短くすることで、支援の効果を高めることができる。

非公開

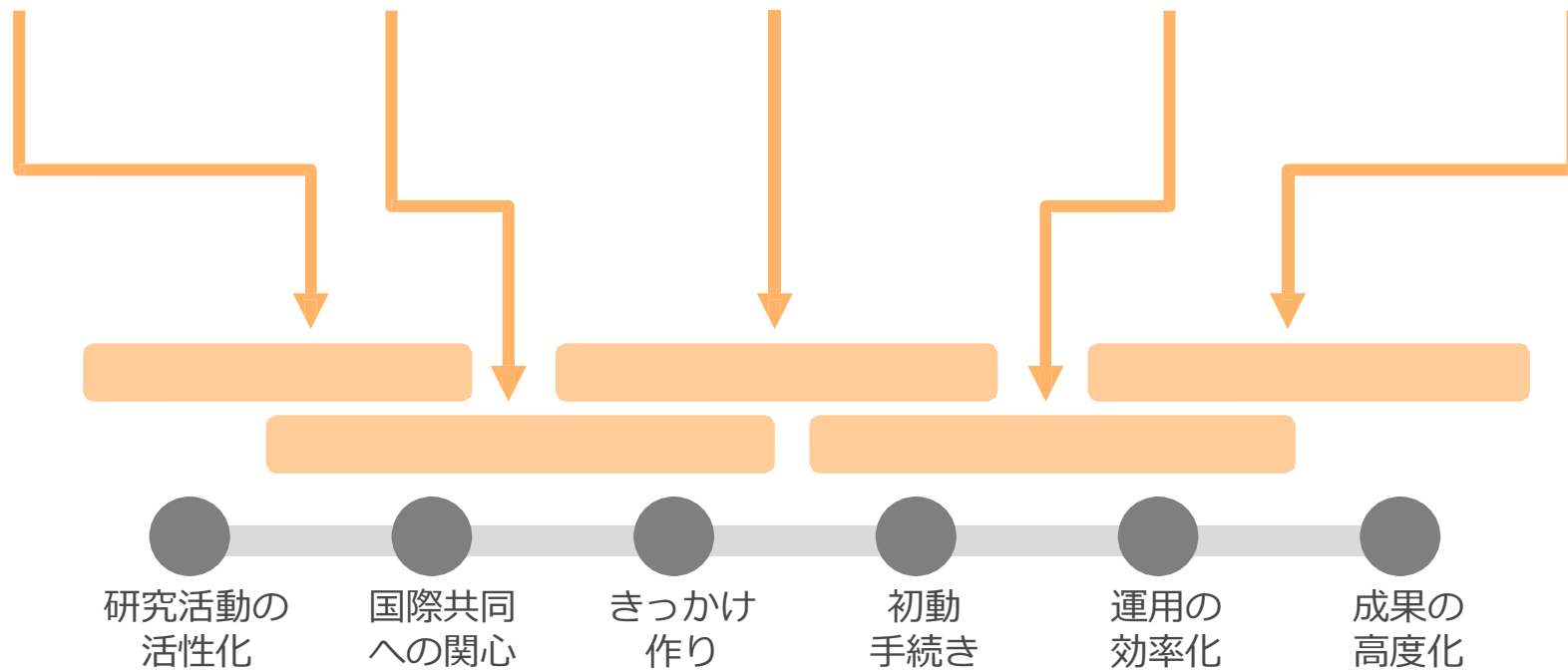


研究者の状況に合わせた優先度の高い施策を実施することが重要。

施策の例

研究者のグループと施策の方向性

非公開



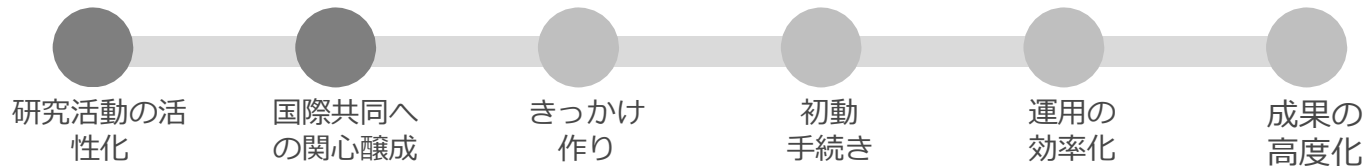
GROUP1 :

状況

求められる
支援

具体策例

非公開



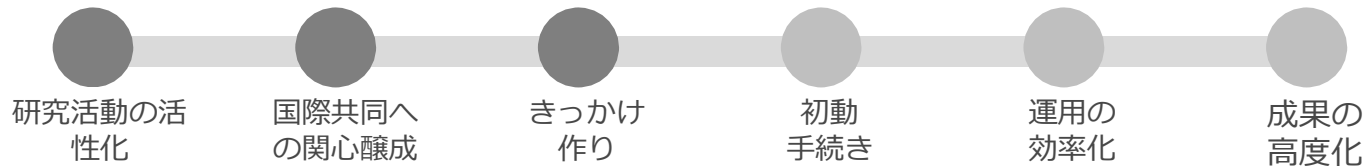
GROUP2 :

状況

求められる
支援

具体策例

非公開



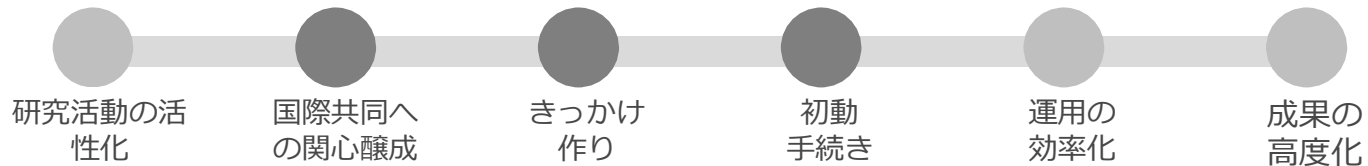
GROUP3 :

状況

求められる
支援

具体策例

非公開



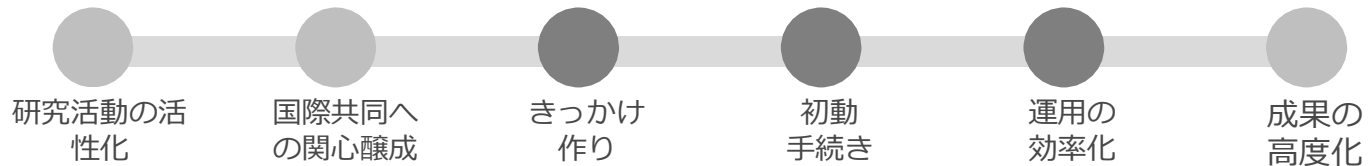
GROUP4 :

状況

求められる
支援

具体策例

非公開



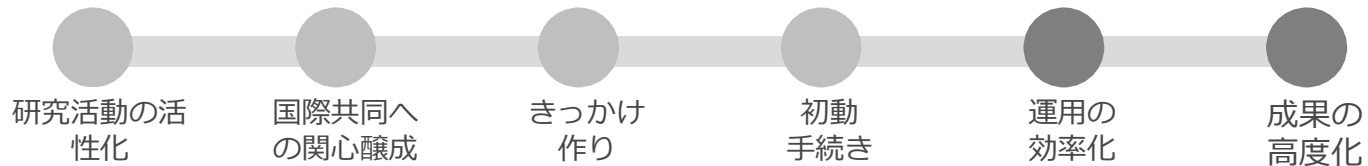
GROUP5 :

状況

求められる
支援

具体策例

非公開





THOMSON REUTERS